



日本住を快適空間!

# ダンネット通信

2005.6-7 vol.44

発行：株式会社ダンネット 〒070-8045 北海道旭川市忠和5条4丁目 63-636 TEL(0166)61-9151・FAX(0166)61-2044

## 今月のトピックス

### シックハウス新法施行から2年

#### 成果は確実に出ているが…

平成15年7月の建築基準法の改正、いわゆるシックハウス新法が施行されてから約2年が経ちました。この法律は社会的な問題となっていたシックハウス症候群や化学物質過敏症対策として、ホルムアルデヒドとクロルピリホスの2物質を規制対象とし、内装材及び天井裏等の建材の使用制限、換気システムの設置を義務付けました。

この法律の効果はどうだったかという、国土交通省が築1年未満の住宅を対象に行っている室内空気質の調査結果を見る限りでは、成果があったと考えられそうです。国交省は16年度調査でシックハウス新法施行前に着工した1,780軒の住宅と施行後に着工した1,349軒の住宅で、ホルムアルデヒドなど6つの化学物質濃度を測定していますが、そのうちホルムアルデヒドが厚生労働省の指針値(0.08ppm)を超過した住宅の割合は、新法施行前の着工物件が1.6%であったのに対し、新法施行後の着工物件は1.3%。僅か0.3%の差ですが、新法施行後のほうが少なくなっています。また、5.6%の住宅が指針値を上回っていた15年度調査より、一段と良好な結果と言えます。

このように結果だけを見ると、ホルムアルデヒドが指針値を超える住宅は確実に減っていますが、逆に言えばまだ1.3%の住宅はホルムアルデ

ヒドが指針値を超えているわけです。もともとシックハウス新法はホルムアルデヒドを指針値以下に抑えるのが1つの目的であることを考えると、1.3%でも指針値を超えたことに“なぜなんだ?”と思う人もいるのではないのでしょうか。

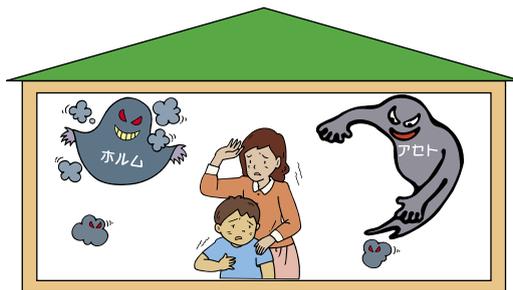
#### ユーザーの意識啓蒙も必要に

実はホルムアルデヒドが指針値を超過した1.3%の住宅については、換気システムが作動していない時や、気温の高い日に濃度を測定した住宅が多かったそうです。

つまり、シックハウス新法を守っていたとしても、換気システムを動かしていなかったり、室内の温度が高くなったりした場合には、注意すべきということなのです。特に換気は法律

で設置は義務付けられていても、運転は義務付けられていません。ですからビルダーとしては、換気を絶対に止めないこと、気温の高い日は窓を開けるなど積極的に換気をすること、家具や日用品から放散される化学物質にも気を付けることなどを事前にユーザーに伝え、わかってもらう必要があります。

ユーザーの健康については、ユーザー自身が守るものであると同時に、ビルダーも大切な役割を担っているということ、改めて意識した家づくりが求められていると言えそうです。



シックハウス問題はまだ完全に解決したわけではない

特集

# シュトーサーモ・クラシックの魅力を探る

その3

北海道ではRC造のマンションやビル等の新築物件で採用が増えているシュトーサーモ・クラシック。これまでの外装材とは異なり、高い耐クラック性に代表される優れた耐久性や“味”のあるテクスチャーは、快適な暮らしはもちろんのこと、建物の資産価値を高めるとともに、維持管理費の低減するなど様々な魅力を有しています。そこで第3回目となる今回はシュトーサーモ・クラシックの新築事例を紹介しましょう。

## 安心して使える品質・性能

「RC部分で外断熱を行うなら、シュトーサーモ・クラシックはいくつかある選択肢の中のトップランクに位置します」。こう話してくれたのは札幌市にある(株)ルマックス環境デザイン(☎011-811-7110)の蒔苗浩伸社長。今回紹介する北見市内のクリニック・いわもと循環器クリニックは、同社が設計を行なった新築物件です。

同社がいわもと循環器クリニック新築の設計に関する相談を同クリニックの院長から受けたのは平成15年の夏のこと。基本設計を進めていく中、院長はカナダを旅行した時に湿式の外装工法を取り入れたホテルに宿泊し、その性能を身をもって感じていたことから、外断熱の湿式外装工法で躯体そのものの耐久性と快適性、省エネ性を高めていきたいという話になったそうです。そして外断熱の湿式外装工法を研究した結果、採用したのがシュトーサーモ・クラシックでした。

シュトーサーモ・クラシックを選んだ理由について、蒔苗社長は次のように語っています。「いろいろ調べていくうちに、コストを安くするためベースコート(下塗り材)にセメントを用いたりしている製品もありましたが、シュトーサーモ・クラシックは原料がアクリル100%だったので品質・性能の面で安心できました。また、シュトーサーモ・クラシックは道内でダンネットさんが代理店として展開しているので、アフターメンテナンスの点でも安心できると考えました」。

## 安心して使える品質・性能

今年4月にオープンしたいわもと循環器クリニックは、約205坪のRC造2階建て。断熱はRC躯体の外側に120mmのEPS断熱材(ビーズ法ポリスチレンフォーム)を施工。120mm厚のEPS断熱材はシュトーサーモ・クラシックで最も厚いもので、これは極寒冷地である北見の

気候風土を考えてのこと。このEPS断熱材の上にベースコートとグラスファイバーメッシュを施工し、トップコートで仕上げていますが、1階はレンガ風の専用疑似タイルで仕上げ重厚感を醸し出し、見た目はシンプルながらもデザインは提案力の高さを感ぜさせる仕上がりとなっています。



シュトーサーモ・クラシックについて語るルマックス環境デザインの蒔苗社長

同社としては初採用となったシュトーサーモ・クラシック。採用するにあたっては、材料等が全てドイツの船便となるため、数量や色の調子などあらかじめダンネットとの確認が欠かせなかったとのことですが、特にデメリットはなく、仕上がりもほぼ予想通りだったそうです。

最後に蒔苗社長は今後のシュトーサーモ・クラシックの採用について「外装仕上げをどう仕上げるかは施主の考えによって変わってきますが、外断熱で湿式仕上げを行うのであればシュトーサーモ・クラシックがいいでしょう」と語ってくれました。



シュトーサーモ・クラシックで外装仕上げを行った「いわもと循環器クリニック」



ベースコートの施工(上)と疑似タイルを貼り付けているところ(下)



2階(上)と1階(下)の外壁仕上げの様子

## ニュース・セレクション

ダンネット、創立25周年を祝う



記念式典・祝賀パーティーで挨拶を行うダンネット・太田社長

(株)ダンネットでは今年で創立25周年を迎えたのを機に、6月3日、旭川グランドホテルで「創立25周年記念式典・祝賀パーティー」を開催した。

記念式典の冒頭で太田吉四郎社長は「振り返れば25年の月日はあっという間で、設立当初は6畳の部屋を事務所にし、5名の社員でスタートしたが、現在では100名を超える社員が頑張っている。この間は幾多の困難もあり、激動の経済情勢と平成不況は今も続いているが、激動の中にあつてこそ飛躍のチャンスがあると、私は社員に言い続けてきた。私のこの哲学は不動のものであり、今後もこの経営方針をこれまで通り継承して、邁進していきたいと考えている。そのために今後も来賓の皆様と社員の方々の協力をお願いしたい」と挨拶。

また、太田社長は引き続き行われた祝賀パーティーで「会社設立当初は断熱の施工専門業者がほかになく、断熱施工の業種自体も生まれていなかったため、世間に認知されていなかった。そういう意味では今日に至るまで波乱と困難の毎日乗り越えてきたと言える。当社が断熱の専門技術集団として世間に認知してもらうまで実に15年の歳月をかけ、北海道の寒冷地住宅の省エネルギー対策、そして住環境の改善にひたむきに取り組み、研究を重ねてきた。さらに今日では、地球温暖化など環境問題が深刻化し、それにとまって断熱工事の質の高度化・多様化も求められるようになってきたが、当社としても製品はもちろん、技術も含めて時代の変化と進歩に対応するため、最先端の製品開発・技術開発を限りなく追求する技術開発プロジェクトを社長室に設置している。今後も常に社内の活性化を図りながら、情熱をもって誠実に施工技術・工法と製品の開発に臨んでいきたい」と今後の抱負を語った。

## 注文住宅は夏以降に受注改善か？

住宅金融公庫では住宅の受注状況を調べるため、今年3月に全国約4,300社のビルダー・不動産業者等を対象に全国住宅市場調査を実施。受注状況を示すD.I(受注が増加したという業者の比率から、減ったという業者の比率を引いた数値)によると、注文住宅は今年1~3月期が-16.2%と3期連続のマイナスで、4~6月期も僅かにマイナスの見通しだが、7~9月期は+8.8%と改善の兆しがあることがわかった。

一方、賃貸住宅のD.Iは今年1~3月期が-20.8%と、注文住宅以上に受注減となった業者が目立ち、今後も4~6月期は-0.4、7~9月期は-0.3という見通しで、注文住宅より受注の回復は先になりそう。なお、リフォームは昨年10~12月期同様、増築・内装等変更・設備更新の各部門とも受注増の業者のほうが多く、好調に推移している。



## 高断熱住宅が夏暑い というのは本当？

Q…本州で高断熱にすると、夏に暑すぎるのではないかと  
いう話を聞きますが、本当な  
のでしょうか？

A…室内の熱を外に逃がさない高断熱・高気密住宅は、夏になると室内に熱がこもり、暑くていられないのではと考える人が多いようです。

しかし、断熱材によって室外と室内を温度的に区画しているので、室内の熱を逃がさないと同時に、室外の熱も遮断することになり、夏には外の熱気を防いで室内の温度上昇を抑えることが可能になります。

そもそも高断熱住宅は夏に暑いと言われるようになったのは、北海道の初期の高断熱・高気密住宅のスタイルが、そのまま本州に持ち込まれたことが原因のようです。かつて北海道の夏は暑い期間が短く、冬には積雪や日射取得対

策が重視されたため、軒や庇などによる日射遮蔽はあまり行われず、一方で冬に熱が逃げやすい窓は小さく、そして少なくする傾向にありました。そのような住宅を見た本州の一部のビルダーが、「高断熱・高気密住宅は軒や庇がなく、窓も少ない」と思い、本州でそのまま建てた結果、夏に室内が日射によってオーバーヒート状態となり、高断熱・高気密住宅は夏に室内が暑くなると思われたたわけです。

もっとも、今では北海道でも軒や庇で日射を遮るほか、窓も断熱性能が向上したことにより、大きなサイズのものを通風を考えて付けられるようになりました。やはり、日射遮蔽や通風による防暑対策がなければ夏を快適にすることは難しいと言えます。

このように防暑対策をしっかりと施した高断熱・高気密住宅であれば、本州でも夏の暑い時期にいくつものクーラーを付けっ放しにする必要はなく、冷房日数・使用電力量とも削減することが可能になります。



防暑対策を施した住宅の例

### ●編集●後●記●

◆6月に入ってから、北海道の天気もあまりすっきりしません。ここ数年、蝦夷梅雨なんて言葉も良く聞きますが、天候不順は建築だけでなく、いろんな事業に影響を及ぼします。これも地球温暖化の影響なのでしょうか。(佐野)

◆愛知県三河地方で、地元ユーザーのため高断熱・高気密住宅を建てていこうと決意した工務店グループの話を知りました。快適な家を建てるために寒冷地と同じ性能の実現を目指す彼らの活躍に期待したいものです。(水越)



株式会社ダンネツ

ホームページURL <http://www.dan-netsu.co.jp/>  
E-mailアドレス [info@dan-netsu.co.jp](mailto:info@dan-netsu.co.jp)

「快適な住まいづくり」はお任せ下さい！

- フローリング工事
- 気密・換気工事
- 防水工事
- ガラスウール工事
- 吹付・注入工事
- パネル製造

■本 社	〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目63-636	TEL(0166)61-9151 FAX(0166)61-2044
■旭川工場	〒071-1248 上川郡鷹栖町2962番363	TEL(0166)87-4442 FAX(0166)87-4888
■札幌支店	〒003-0869 札幌市白石区川下2127番地4	TEL(011)875-3966 FAX(011)875-3971
■釧路支店	〒088-0621 釧路郡釧路町桂木5丁目15	TEL(0154)36-1790 FAX(0154)36-1844
■帯広支店	〒080-2460 帯広市西20条北2丁目27-10	TEL(0155)41-4101 FAX(0155)41-4105
■旭川支店	〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目63-636	TEL(0166)62-7575 FAX(0166)61-1715
■北見支店	〒099-0878 北見市東相内町174番地16	TEL(0157)36-3557 FAX(0157)36-3433
■千歳営業所	〒066-0008 千歳市根志越2190-27	TEL(0123)26-4111 FAX(0123)26-4112
■千葉支店	〒262-0011 千葉県千葉市花見川区三角町16番2	TEL(043)258-4065 FAX(043)258-4025
■宇都宮支店	〒321-0932 栃木県宇都宮市平松本町362-6	TEL(028)636-1266 FAX(028)636-2675
■高崎支店	〒370-3523 群馬県群馬郡群馬町大字福島738番地1	TEL(027)373-7199 FAX(027)373-5583
■平塚支店	〒254-0018 神奈川県平塚市東真土4丁目2-69	TEL(0463)54-6484 FAX(0463)54-2430
■水戸営業所	〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡3660-15	TEL(029)291-1822 FAX(029)291-1825
■ダンネツ信州	〒399-0033 長野県松本市大字笹賀5130-1	TEL(0263)26-0811 FAX(0263)26-1016